CUC DIVERSITY

CUC DIVERSITY TIMES ダイバーシティ タイムズ

Vol. 04
ISSUE : Jan 2023

千葉商科大学 ダイバーシティ推進委員会 Committee for Promotion of Diversity, Chiba University of Commerce

〒272-8512
千葉県市川市国府台1-3-1
TEL.047-373-3933(学生課)
https://www.cuc.ac.jp

01 大学におけるダイバーシティ推進に関するSDについて(開催報告)

昨年度に引き続き第2回目となるダイバーシティ推進に関するSDは、教職員を対象とし、「グローバル時代に生きる国際感覚(多様性)を身に付ける学生教育の必要性」をテーマに、グローバル分野の理解促進を目的とした講演会を2022年10月26日(水)に実施しました。(参加者数348名)。

講演会内容

①「異文化コミュニケーション実践の意義:自文化・自己の相対化を促す契機として」
商経学部　教授　山内 真理
②「留学体験談」(インタビュー形式)　学生(大井 航太・間中 駿介・平山 聖)
③「ダイバーシティ社会への第一歩～選ばれる日本・千葉商科大学へ～」
人間社会学部　専任講師　NGUYEN Thuy

02 【コラム】「ダイバーシティ社会への第一歩～選ばれる日本・千葉商科大学へ～」

ダイバーシティには様々な側面がありますが、今回は外国人との交流に主眼を置いてお話します。経済産業省から公表された「未来人材ビジョン」に関する報告によりますと、留学先、仕事の場として海外の高度人材、留学生から日本が次第に選ばれなくなっている現実があります。こうした状況においてもなお日本では外国人受容の体制や意識が不十分なところや若者、特に大学生を中心に海外とのかかわりを避ける傾向が見て取れます。

学生には①「海外に関心があり交流を希望する学生」、②「海外に関心はあるが、交流する勇気がない学生」、③「全く海外に関心がなく、外国人との交流を厭う学生」の三つのタイプが存在すると考えられます。国際交流の重要性が増す中、これらのタイプに応じた学生対応を行うことは大学という最高教育機関として必須といえましょう。

①のタイプには国際交流に参加できる機会の増加ないし環境整備が重要であり、②、③のタイプに対しては粘り強く国際理解、異文化理解の重要性を説くことが必要です。国の未来をつくり社会をかえていくのは学生達であることを踏まえると、しっかり学生に向き合い、国際社会の一員となる人材を育成することこそダイバーシティ社会に千葉商科大学が貢献できる最も重要なことといえるのです。

人間社会学部 専任講師
NGUYEN Thuy

03 ダイバーシティウィーク2022 開催

通算２回目の開催となる今年度のダイバーシティウィークは、「知る」+「体験する」をテーマに学生・教職員を対象としたダイバーシティ啓発イベントとして、11月21日(月)～25(金)にオンライン(一部ハイブリッド形式)で開催しました。

〈day.1〉【シンポジウム】ともに暮らす地域について語る、拓く

全4日程のうちのday.1では「体験する」プログラムとして、市川市社会福祉協議会のご協力のもと、福祉機器や支援アプリの体験会を開催しました。また「知る」プログラムでは、シンポジウム・学生による活動発表・座談会が行われました。

シンポジウムではNPO法人ピープルデザイン研究所の田中真宏氏と就労支援工房「ふわふわベーカリー」のメンバーをお招きし、「障がいとは何か」「支援と受援の関係とは」「共生社会とは」をテーマに理解を深めました。